



CDR と CDR のエクスポート

- [CDR および CMR レコード \(1 ページ\)](#)
- [CDR 検索 \(5 ページ\)](#)
- [CDR 検索結果 \(22 ページ\)](#)

CDR および CMR レコード

この章では、CDR/CMR レコードをエクスポートする方法と、エクスポートしたレコードを表示する方法を説明します。

コンピュータ上の選択した場所に CDR/CMR ダンプ情報をエクスポートするには、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting の [CDR] メニューの [CDR/CMR のエクスポート (Export CDR/CMR)] を使用します。CDR/CMR ダンプは、CSV 形式です。エクスポートされたレコードのダンプを表示することもできます。

CDR および CMR レコードのエクスポート

CDR および CMR レコードの結果をエクスポートするには、この手順に従います。

手順

- ステップ 1** CDR Analysis and Reporting から、[CDR] > [CDR/CMR のエクスポート (Export CDR/CMR)] を選択します。
[CDR/CMR レコードのエクスポート (Export CDR/CMR records)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [開始日 (From Date)] ドロップダウンリストボックスと [終了日 (To Date)] ドロップダウンリストボックスで、CDR/CMR ダンプの日付範囲を選択します。
- ステップ 3** [レコードの選択 (Select records)] で、CDR レコードと CMR レコードのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ファイルへのエクスポート (Export to File)] をクリックします。

[CDR/CMRレコードのエクスポート結果 (Export CDR/CMR records Result)]ウィンドウが表示されます。「[CDR および CMR レコード結果の表示 \(2 ページ\)](#)」を参照してください。

CDR および CMR レコード結果の表示

次の手順で、エクスポートした CDR/CMR レコード結果を表示する方法を説明します。

始める前に

次の手順を開始する前に、[CDR および CMR レコードのエクスポート \(1 ページ\)](#) のすべての手順を実行してください。

手順

ステップ 1 [CDR/CMR レコードのエクスポート結果 (Export CDR/CMR Record Results)]ウィンドウで、[CDR Dump] リンクまたは [CMR Dump] リンクを右クリックします。

次のオプションを含むポップアップ ウィンドウが表示されます。

- a) [開く (Open)]: このオプションは、同じウィンドウで、CDR/CMR ダンプを含むウィンドウを開きます。
- b) [新しいウィンドウで開く (Open in a New Window)]: このオプションでは、新しいウィンドウで、CDR/CMR ダンプを含むウィンドウを開きます。
- c) [対象をファイルに保存... (Save Target As...)]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプをコンピュータ上の指定した場所に保存できます。
- d) [対象を印刷 (Print Target)]: このオプションは、CDR/CMR ダンプ情報を印刷します。
- e) [ショートカットのコピー (Copy Shortcut)]: このオプションは、ウィンドウショートカットを他のファイルにペーストできるようにコピーします。
- f) [お気に入りに追加 (Add to Favorites)]: このオプションは、[お気に入り (Favorites)] フォルダに CDR/CMR ダンプを追加します。
- g) [プロパティ (Properties)]: このオプションは、CDR/CMR ダンプ ファイルのプロパティを表示します。

ステップ 2 ポップアップ ウィンドウから、オプションの 1 つを選択します。

ステップ 3 CDR/CMR ダンプをコンピュータに保存するように選択した場合は、ダンプを保存する場所を選択し、[保存 (Save)]をクリックします。ダウンロードが完了したら、ダウンロードした場所でファイルを見つけて、開くことができます。

ステップ 4 CDR ダンプまたは CMR ダンプを削除するには、[ファイルの削除 (Delete File)]チェックボックスをオンにし、[戻る (Back)]または [閉じる (Close)]をクリックします。

ファイルが削除されます。

(注) [ファイルの削除 (Delete File)] チェックボックスをオンにしない (たとえば、CDR ダンプファイルまたはCMR ダンプファイルが削除されないまま残される) 場合、日々行われるバックグラウンド処理でファイルが削除されます。CDR ダンプファイルと CMR ダンプファイルはサイズが大きいため、Cisco では、サーバ側のディスク使用を避けるために、ファイルをローカルディスクにダウンロードして、サーバからは削除することを推奨しています。

CDR データ

コール詳細レコード (CDR) は、着信番号、発信番号、コールが開始された日付と時刻、コールが接続された時刻、およびコールが終了した時刻の詳細情報を示します。コール管理レコード (CMR) は、診断レコードとも呼ばれ、ジッター、損失パケット、コール中に送受信されたデータの量、および遅延の詳細情報を示します。CDR データは、CDR と CMR を集めてまとめたものです。単一のコールで、複数の CDR および CMR が生成される場合があります。Unified Communications Manager は、CDR および CMR 内の各コールに関連する情報を記録します。CDR と CMR は、総称として CDR データとして知られており、CAR の基本的な情報ソースとして機能します。

Cisco CDR Agent サービスは、Unified Communications Manager が生成した CDR ファイルと CMR ファイルをローカル ホストから CDR リポジトリ ノードに転送します。CDR リポジトリ ノードでは、CDR Repository Manager サービスが SFTP 接続を介して実行されています。SFTP 接続が切断されると、Cisco CDR Agent サービスは、接続が確立されるまで CDR リポジトリ ノードとの接続を試み続けます。Cisco CDR Agent サービスは、CDR リポジトリ ノードとの接続が再開されると、溜まっていたすべての CDR ファイルを送信します。CDR Repository Manager サービスは、CDR ファイルと CMR ファイルを保守し、CMR と CDR に使用するディスク空間を確保し、最大 3 つの設定済みの宛先にファイルを送信し、各宛先への配信結果を追跡します。CAR は、CDR Repository Manager サービスが作成したディレクトリ構造内の CDR/CMR ファイルにアクセスします。

ユーザが設定したコール量の上限と下限の設定は、CDR リポジトリに割り当てられる、総ディスク空間に対する割合 (%) を指定します。CDR リポジトリ フォルダの下で保持されているフォルダは、コール量の上限と下限の割合 (%) に寄与しますが、コール量の上限に達しても、Log Partition Monitoring がそのフォルダを削除することはありません。コール量の上限に達すると、CDR Repository Manager は、コール量の下限に達するまで処理済みの CDR ファイルを削除するか、または下限に達しない場合は処理済みの CDR ファイルをすべて削除します。処理済みの CDR ファイルをすべて削除してもコール量の下限に達しない場合、削除はそこで停止します。システムが最大ディスク割り当てに達するまで、CDRHighWaterMarkExceeded アラームが発生します。最大ディスク割り当てに達すると、システムは、ディスク使用量がコール量の上限を下回るまで、未配信のファイルを削除し、さらに保持期間内のファイルを古いファイルから順に削除していきます。このシナリオの CDRMaximumDiskSpaceExceeded アラームが繰り返し発生する場合は、ディスク割り当てを増やすか、または保持日数を短くしてください。



- (注) ディスク割り当ての使用量が設定された最高水準点しきい値を超えると、LMP は、次のパスでエクスポートされる CDR および CMR データも自動的に消去します。
- ユーザーまたはサードパーティ製アプリケーションは、エクスポートされたファイルをただちに取得して、バッファされた履歴データを失わないようにする必要があります。

これらのアラームに関する情報は、CDR Repository Alarm Catalog (CDRRepAlarmCatalog) にあります。次の表に、このカタログのアラームとアラートを表示します。

これらのアラームを設定するには、[Cisco Unifiedサービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] > [CDRサービス (CDR Services)] に進みます。

表 1: CDR Repository Alarm Catalog

[名前 (Name)]	重大度	説明
CDRFileDeliveryFailed	ERROR_ALARM	SFTP による CDR ファイルの外部課金サーバへの配信が失敗しました。
CDRAgentSendFileFailed	ERROR_ALARM	CDR Agent が Cisco Unified CM ノードから Unified Communications Manager のクラスタ内の CDR Repository ノードに CDR ファイルを送信できません。
CDRHWMExceeded	WARNING_ALARM	CDR ファイルのコール量の上限 (HWM) に達して、正常に配信された CDR ファイルの一部が削除されました。
CDRMaximumDiskSpaceExceeded	CRITICAL_ALARM	CDR ファイルのディスク使用量が最大ディスク割り当てを超過しました。ディスク使用量を減らすために、未配信のファイルが一部削除された可能性があります。
CDRFileDeliveryFailureContinues	ERROR_ALARM	SFTP による CDR ファイルの配信が、再試行で失敗しました。

[名前 (Name)]	重大度	説明
CDRAgentSendFileFailureContinues	ERROR_ALARM	CDR Agent が、再試行で CDR ファイルを Cisco Unified CM ノードから CDR リポジトリ ノードに送信することができません。

これらのアラームおよび推奨処置の詳細については、**[Cisco Unifiedサービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)]>[アラーム (Alarm)]>[定義 (Definitions)]>[CDRRepAlarmCatalog]** でアラーム定義を参照してください。

CDR サービスおよびアラームの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

CDR 検索

どの CDR 検索レポートでも、設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードしか表示されません。CDR 検索レポートは、HTML 形式でしか生成されません。

CDR検索を設定すれば、コールの詳細を確認できます。検索は、1つのコールのすべての関連ログのグループを形成します。これは、コールが会議や転送を含む場合に便利です。この方法は、コール全体の進行状況や各部の品質を追跡するのに役立ちます。

ここでは、次の機能について説明します。

- ユーザ/電話番号/SIP URL による CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。CDR をユーザまたは電話番号（発信者、元の着信者、最終的な着信者、ブリッジ番号など）で検索することにより、検索条件を満たす最初の 100 レコードのコール詳細情報を分析できます。指定した期間について、特定の番号を使用してコールを検索できます。これは、診断または情報収集の目的で、任意の特定番号が発信または着信したコールを追跡するのに役立ちます。転送、会議コールなど、関連のあるすべてのレコードが、論理グループとしてまとめて表示されます。電話番号または SIP URL を指定しなかった場合、指定した日付範囲に一致する最初の 100 個の CDR レコードが返されます。
- ゲートウェイによる CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。ゲートウェイで CDR を検索することにより、特定のゲートウェイを使用したコールの詳細情報を分析できます。この方法は、特定のゲートウェイを通過したコールに関する問題を追跡する際に役立ちます。
- コール終了原因での CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コールが終了した原因で CDR を検索することにより、コールの終了原因に関する情報を取得できます。コール終了の原因のリストから選択し、指定した日付範囲のレポートを生成できます。生成されたレポートには、レポート条件に加えて、与えられた時間に発信されたコールの総数が含まれます。さらに、コール終了原因コードと説明、コールの総数、各コール終了原因のコールの割合（%）、その CDR を選択するためのオプションの入った表が表示されます。

- コールの優先レベル別の CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コールの優先レベルで CDR を検索できます。生成されたレポートでは、優先度に基づいて CDR を表示できます。レポートの生成に使用する優先レベルと日付範囲を選択できます。レポートには、コールの番号と、選択した各優先レベルに対するそれらのコールの割合 (%) が表示されます。[コールの優先順位の詳細 (Call Precedence Details)] ウィンドウでのレポート条件には、レポートが情報を生成した優先レベルと日付範囲が表示されます。[優先レベル別の CDR 検索結果 (CDR Search by Precedence Levels Result)] ウィンドウから、メディア情報と CDR-CMR ダンプを表示できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、別々のウィンドウで表示されます。
- 迷惑呼の CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。CDR を検索して、迷惑コールに関する情報を取得できます。電話番号または SIP URL とレポートを生成する日付範囲を選択できます。レポートには、選択した電話番号または SIP URL と日付範囲のすべての迷惑呼の CDR が表示されます。レポート条件には、電話番号または SIP URL とレポートが情報を生成した日付範囲が表示されます。[CDR-CMR 検索結果 (CDR-CMR search results)] ウィンドウから、メディア情報と CDR-CMR ダンプを表示できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、別々のウィンドウで表示されます。
- CDR/CMR のエクスポート：CAR 管理者が使用できます。この機能では、与えられた日付範囲の CDR/CMR ダンプ情報をコンピュータ上の選択した場所に CSV 形式でエクスポートできます。また、ダンプ情報のファイルサイズを表示したり、CDR/CMR ファイルを削除したりすることもできます。



(注) CAR は、管理者、マネージャ、個々のユーザの 3 つのレベルのユーザのためのレポート機能を提供します。ただし、CDR 検索を使用できるのは CAR 管理者だけです。

はじめる前に

必ず Unified Communications Manager サービスパラメータの CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を **True** (イネーブル) に設定して、システムが CDR/CMR データを生成できるようにしてください。デフォルトでは、これらのサービスパラメータはディセーブルになっています。これらのサービスパラメータの詳細については、[CDR サービスパラメータの設定](#)を参照してください。

すべての CAR レポートで、CDR データが使用されます。レポートを作成する際には、必ず最新の CDR データを元にしてください。デフォルトでは、CDR データは週末も含めて 24 時間連続稼働でロードされますが、必要に応じて、ロード時間や、間隔、継続時間を設定できます。詳細については、[CDR ロードスケジュールの設定](#)を参照してください。



- (注) Unified Communications Manager もアクティブになっていると、CAR メイン ウィンドウにログインした後、「警告：このクラスタの一部のサーバでは、CDR有効フラグが false になっているので、このクラスタで発信されるコールの中には CDR エントリが生成されないものがあります。（Warning: In some servers in this cluster the CDR Enabled Flag is false and so CDR entries may not be generated for all the calls that are made in this cluster.）」という警告が表示される場合があります。一部のクラスタには、複数のノードがあり、一部のノードではユニファイドコミュニケーションマネージャサービスが実行されません。この警告は、Unified Communications Manager サービスのアクティベーションステータスに関係なく、クラスタ内のすべてのノードを検査します。すべての Unified Communications Manager サービス加入者の CDR Enabled Flag パラメータ設定を手動で確認した後、この警告は無視してください。

ユーザによる CDR 検索の生成

ユーザ/電話番号/SIP URL による CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。

ここでは、ユーザまたは電話番号または SIP URL 機能に基づいて CDR データの詳細情報を表示する方法を説明します。CDR データをユーザまたは電話番号（発信者、元の着信者、または最終的な着信者）で検索することにより、検索条件を満たす最も古い方から 100 レコードのコール詳細情報を分析できます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。指定した期間について、特定の番号を使用してコールを検索できます。これは、診断または情報収集の目的で、任意の特定番号が発信または着信したコールを追跡するのに役立ちます。転送、モビリティ、サイレントモニタリングと録音、会議コールなど、関連のあるすべてのレコードが、論理グループとしてまとめて表示されます。

手順

- ステップ 1** [CDR]>[検索 (Search)]>[ユーザ/電話番号/SIP URL 別 (By User/Phone Number/SIP URL)] を選択します。

[CDR 検索 (CDR Search)] ウィンドウが表示されます。

- (注) 電話番号または SIP URL の検索には、「!」または「X」などのワイルドカードパターンを入力できます。「!」は、各桁が 0～9 の任意の n 桁を表し、「X」は、0～9 の範囲の 1 桁を表します。

- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。

- 内部電話番号/SIP URL に基づいて CDR を検索するには、[電話番号/SIP URL (Phone Number/SIP URL)] フィールドに値を入力し、[電話番号/SIP URL の追加 (Add Phone Number/SIP URL)] をクリックします。
- ユーザに基づいて CDR を検索するには、[ユーザ別の内線番号/SIP URL の検索 (Search Internal Phone Number/SIP URL based User)] リンクをクリックし、[名 (First Name)] フィールドに名前 (ファーストネーム) の最初の数文字、または [姓 (Last Name)] フィールドに姓の最初の数文字を入力して [検索 (Search)] をクリックします。結果が表示されたら、

取り込みたい結果の横にある [選択 (Select)] リンクをクリックします。[閉じる (Close)] をクリックします。

[電話番号/SIP URL (Phone Number/SIP URL(s))] ボックスに電話番号または SIP URL が表示されます。

(注) [レポート基準 (Report Criteria)] ボックスから項目を削除するには、[電話番号/SIP URLの削除 (Remove Phone Number/SIP URL(s))] をクリックします。[すべての電話番号/SIP URLを削除 (Remove All Phone Number/SIP URL(s))] をクリックすれば、[レポート基準 (Report Criteria)] ボックスからすべての項目を削除できます。

ステップ 3 指定したユーザまたは電話番号か SIP URL の CDR を表示する期間の日付と時刻の範囲を選択します。現在の時刻が協定世界時 (UTC) と現地時間の両方で表示され、次のルールが使用されます。

- a) UTC と現地時間は、January 15, 2007 12:00:00 のように mmddyyyy hhmmss の数値文字列で構成されます。
- b) デフォルトの FromDate 値と ToDate 値が、UTC 時刻で表示されています。
- c) デフォルトの ToDate は、サーバの現在の時刻を UTC 時刻で表したものです。
- d) デフォルトの FromDate 値は、ToDate 値より 1 時間前の時刻です。たとえば、ToDate 値が January 15, 2007 12:00:00 の場合なら、FromDate のデフォルト値は January 15, 2007 11:00:00 になります (すべて UTC 時刻)。

ステップ 4 CDR 検索をグループ化ありで実行するか、なしで実行するかを選択します。グループ化するように選択する場合は、[グループ化する (With Grouping)] の横のチェックボックスをオンにします。デフォルト値は、グループ化なしです。

(注) グループ化するように選択すると、検索の日付と時刻の範囲内の CDR レコードが返され、それらが関連のあるレコードでグループ化されます。グループ化なしで実行すると、日付と時刻の範囲が一致するすべての CDR レコードがグループ化されずに、各コールに関連するすべてのレコードが返されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[CDR-CMR 検索結果 (CDR-CMR Search Results)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3 \(8 ページ\)](#) で設定した日付範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。

ステップ 6 CMR データを表示するには、[その他 (Others)] をクリックします。CDR と CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[表示 (View)] をクリックします。

ステップ 7 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[メールレポート](#)の手順を実行します。

ゲートウェイによる CDR 検索の生成

ゲートウェイによる CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。

ここでは、指定したゲートウェイタイプ、または選択したルートパターンを使用するゲートウェイに基づいて CDR データを検索する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** [CDR]>[検索 (Search)]>[ゲートウェイ別 (By Gateway)] を選択します。
[ゲートウェイによる CDR 検索 (CDR Search by Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- a) システム上で設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、[ゲートウェイ タイプとルートパターン (Gateway Types and Route Patterns)] ペインで [ゲートウェイ タイプ (Gateway Types)] をクリックします。
 - b) ツリー構造を展開して、選択できるゲートウェイ タイプを表示するには、[ゲートウェイ タイプ (Gateway Types)] の横にあるアイコンをクリックします。
 - c) ゲートウェイ タイプではなく、特定のルートパターン/ハントパイロットを使用するゲートウェイを選択するには、[ゲートウェイ タイプとルートパターン (Gateway Types and Route Patterns)] ペインで [ルートパターン/ハントパイロット (Route Patterns/Hunt Pilots)] をクリックします。設定されたルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
 - d) ツリー構造を展開して、選択できるルートパターン/ハントパイロットを表示するには、[ルートパターン/ハントパイロット (Route Patterns/Hunt Pilots)] の横にあるアイコンをクリックします。
- (注) ウィンドウの左側のカラムの [ルートパターン/ハントパイロット (Route Patterns/Hunt Pilots)] ボックスにルートパターン/ハントパイロットの名前の一部を入力することにより、特定のルートパターン/ハントリストを検索できます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。
- ステップ 3** リストからゲートウェイ タイプを選択します。
ゲートウェイの名前が、[ゲートウェイのリスト (List of Gateways)] ボックスに表示されます。
- (注) [ゲートウェイのリスト (List of Gateways)] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイが最大 200 まで表示されます。
- ステップ 4** [ゲートウェイのリスト (List of Gateways)] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。
- (注) 一度に最大 15 のゲートウェイのレポートを生成できます。15 よりも多いゲートウェイを選択すると、「新しいレポートを生成する 15 個以下のゲートウェイを選択してください (Select 15 or fewer gateways to generate new report)」というメッセージが表示されます。
- ステップ 5** 選択したゲートウェイを [選択されたゲートウェイ (Selected Gateways)] ボックスのリストに移動するには、下矢印をクリックします。
選択したゲートウェイが、[選択されたゲートウェイ (Selected Gateways)] ボックスに表示されます。

- ステップ 6** CDR データを検索する期間の日付と時刻の範囲を選択します。現在の時刻が協定世界時 (UTC) と現地時間の両方で表示され、次のルールが使用されます。
- UTC と現地時間は、January 15, 2007 12:00:00 のように mmddyyyy hhmmss の数値文字列で構成されます。
 - デフォルトの FromDate 値と ToDate 値が、UTC 時刻で表示されています。
 - デフォルトの ToDate は、サーバの現在の時刻を UTC 時刻で表したものです。
 - デフォルトの FromDate 値は、ToDate 値より 1 時間前の時刻です。たとえば、ToDate 値が January 15, 2007 12:00:00 の場合なら、FromDate のデフォルト値は January 15, 2007 11:00:00 になります (すべて UTC 時刻)。
- ステップ 7** CDR 検索をグループ化ありで実行するか、なしで実行するかを選択します。グループ化するように選択する場合は、[グループ化する (With Grouping)] の横のチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、[グループ化なし (Without Grouping)] が指定されています。
- (注) グループ化するように選択すると、検索の日付と時刻の範囲内の CDR レコードが返され、それらが関連のあるレコードでグループ化されます。グループ化なしで実行すると、日付と時刻の範囲が一致するすべての CDR レコードがグループ化されずに、各コールに関連するすべてのレコードが返されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
- [CDR-CMR 結果 (CDR-CMR Results)] ウィンドウが表示されます。ステップ 6 (10 ページ) で設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。
- ステップ 9** CMR データを表示するには、[その他 (Others)] をクリックします。CDR と CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[表示 (View)] をクリックします。
- ステップ 10** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[メールレポート](#)の手順を実行します。

コール終了原因での CDR 検索の生成

コール終了原因での CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。次の表に、検索条件に指定できるコール終了原因コードを示します。

表 2: コール終了原因コード

コード	説明
0	エラーなし
1	未割り当て番号
2	指定された中継ネットワークへのルートがない (国際使用)
3	宛先へのルートがありません
4	特殊情報トーンを送信

コード	説明
5	トランク プレフィックスのかけ間違い (国際使用)
6	チャンネルが受け入れ不可能
7	コールが確立されたチャンネル内で与えられ、配信されている
8	プリエンプション (Preemption)
9	プリエンプション - 回路が再利用に予約されている
16	正常なコールクリア
17	ユーザーが通話中です
18	応答ユーザなし
19	ユーザからの応答なし (ユーザにはアラートが送られる)
20	加入者不在
21	コールが拒否されました
22	番号が変更されました
26	非選択ユーザーのクリア
27	宛先の故障
36	無効な番号形式 (アドレスが不完全)
29	ファシリティが拒否されました
30	ステータス問い合わせへの応答
31	正常、詳細不明
34	利用できる回路/チャンネルがない
38	ネットワークの故障
39	永久フレーム モード接続がアウト オブ サービス
40	永久フレーム モード接続が動作している
41	一時エラー発生
42	スイッチング機器の輻輳
43	アクセス情報が破棄された
44	要求された回路/チャンネルが利用できない

コード	説明
46	先のコールがブロックされた
47	リソースの利用不可、未指定
49	QoS が利用できない
50	要求されたファシリティがサブスクライブされていない
53	サービス運用違反
54	着信コール除外
55	非公開ユーザグループ (CUG) 内で着信コール除外
57	ベアラ機能が認められていません
58	ベアラ機能が現在使用できない
62	指定された発信アクセス情報と加入者クラスが矛盾している
63	サービスまたはオプションが利用不可、未指定
65	ベアラ機能が実装されていない
66	チャンネルタイプが実装されていない
69	要求されたファシリティが実装されていない
70	制限されたデジタル情報ベアラ機能しか利用できない (国際使用)
79	サービスまたはオプションが実装されていない、未指定
81	無効なコール参照値
82	識別されたチャンネルが存在しない
83	サスペンドされたコールがあるが、このコール ID がない
84	コール ID が使用中
85	サスペンドされたコールなし
86	要求されたコール ID を持つコールがクリアされている
87	ユーザが CUG (非公開ユーザグループ) のメンバでない
88	宛先に互換性がありません
90	宛先番号がなく、DC がサブスクライブされていない
91	無効な中継ネットワーク (国際使用)

コード	説明
95	無効なメッセージ、未指定
96	必須情報要素が見つからない
97	メッセージタイプが存在しないか、または実装されていない
98	メッセージにコール状態との互換性がないか、またはメッセージタイプが存在しないか実装されていない
99	情報要素またはパラメータが存在しないか実装されていない
100	無効な情報要素コンテンツ
101	メッセージにコール状態との互換性がない
102	タイマーが切れてコールが終了した、エラーから回復するために回復ルーチンが実行された
103	パラメータが存在しないか実装されていない：渡された（国際使用）
110	認識されないパラメータを持つメッセージが破棄された
111	プロトコルエラー、未指定
122	優先レベルの超過
123	デバイスのプリエンプション不可
125	帯域幅不足（シスコ固有）
126	コールスプリット（シスコ固有）
127	インターワーキング、未指定
129	優先コールの帯域幅不足

表 3: シスコ固有のコール終了原因コード

10 進数のコード値	16 進数のコード値	説明
262144	0x40000	会議がいっぱい（旧 124）
393216	0x60000	コールスプリット（旧 126）のコードは、コールが分割されて終了した（最終的に転送されたコールの一部ではなく）ために、転送操作中にコールが終了した場合に適用されます。これは、どのコールが機能操作の一部として終了したかを調べるのに役立ちます。

10 進数のコード値	16 進数のコード値	説明
458752	0x70000	会議からの任意の通話者のドロップ/会議からの最後の通話者のドロップ (旧 128)
16777257	0x1000029	CCM_SIP_400_BAD_REQUEST
33554453	0x2000015	CCM_SIP_401_UNAUTHORIZED
50331669	0x3000015	CCM_SIP_402_PAYMENT_REQUIRED
67108885	0x4000015	CCM_SIP_403_FORBIDDEN
83886081	0x5000001	CCM_SIP_404_NOT_FOUND
100663359	0x600003F	CCM_SIP_405_METHOD_NOT_ALLOWED
117440591	0x700004F	CCM_SIP_406_NOT_ACCEPTABLE
134217749	0x8000015	CCM_SIP_407_PROXY_AUTHENTICATION_REQUIRED
150995046	0x9000066	CCM_SIP_408_REQUEST_TIMEOUT
184549398	0xB000016	CCM_SIP_410_GONE
201326719	0xC00007F	CCM_SIP_411_LENGTH_REQUIRED
234881151	0xE00007F	CCM_SIP_413_REQUEST_ENTITY_TOO_LONG
251658367	0xF00007F	CCM_SIP_414_REQUEST_URI_TOO_LONG
268435535	0x1000004F	CCM_SIP_415_UNSUPPORTED_MEDIA_TYPE
285212799	0x1100007F	CCM_SIP_416_UNSUPPORTED_URI_SCHEME
83886207	0x1500007F	CCM_SIP_420_BAD_EXTENSION
369098879	0x1600007F	CCM_SIP_421_EXTENSION_REQUIRED
402653311	0x1800007F	CCM_SIP_423_INTERVAL_TOO_BRIEF
419430421	0x19000015	CCM_SIP_424_BAD_LOCATION_INFO
1073741842	0x40000012	CCM_SIP_480_TEMPORARILY_UNAVAILABLE
1090519081	0x41000029	CCM_SIP_481_CALL_LEG_DOES_NOT_EXIST
1107296281	0x42000019	CCM_SIP_482_LOOP_DETECTED = 0x42000000 + EXCHANGE_ROUTING_ERROR
1124073497	0x43000019	CCM_SIP_483_TOO_MANY_HOOPS
1140850716	0x4400001C	CCM_SIP_484_ADDRESS_INCOMPLETE
1157627905	0x45000001	CCM_SIP_485_AMBIGUOUS

10 進数のコード値	16 進数のコード値	説明
1174405137	0x46000011	CCM_SIP_486_BUSY_HERE
1191182367	0x4700001F	CCM_SIP_487_REQUEST_TERMINATED
1207959583	0x4800001F	CCM_SIP_488_NOT_ACCEPTABLE_HERE
1258291217	0x4B000011	CCM_SIP_491_REQUEST_PENDING
1291845649	0x4D000011	CCM_SIP_493_UNDECIPHERABLE
1409286185	0x54000029	CCM_SIP_500_SERVER_INTERNAL_ERROR
1442840614	0x56000026	CCM_SIP_502_BAD_GATEWAY
1459617833	0x57000029	CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAILABLE
-1493172161	0xA700003F	CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAILABLE_SER_OPTION_NOAVAIL
1476395110	0x58000066	CCM_SIP_504_SERVER_TIME_OUT
1493172351	0x5900007F	CCM_SIP_505_SIP_VERSION_NOT_SUPPORTED
1509949567	0x5A00007F	CCM_SIP_513_MESSAGE_TOO_LARGE
2701131793	0xA1000011	CCM_SIP_600_BUSY_EVERYWHERE
2717909013	0xA2000015	CCM_SIP_603_DECLINE
2734686209	0xA3000001	CCM_SIP_604_DOES_NOT_EXIST_ANYWHERE
2751463455	0xA400001F	CCM_SIP_606_NOT_ACCEPTABLE

ここでは、コールの終了原因に関する情報を検索する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** [CDR] > [検索 (Search)] > [コール終了原因別 (By Cause for Call Termination)] を選択します。
- [コール終了の原因 (Cause for Call Termination)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** コール終了の原因を検索するには、コール終了原因のリスト内の原因を強調表示にします。
- ヒント キーボードの Ctrl キーを押したまま原因をクリックしていくことで、複数の原因を選択できます。すべての原因をクリックする間に Shift キーを押すことで、リスト内のすべての原因を選択することもできます。
- ステップ 3** 必要な原因が強調表示になった状態で、[選択されたコールの終了原因 (Selected Call Termination Causes)] ボックスの上にある下矢印をクリックします。

選択した原因が、[選択されたコールの終了原因 (Selected Call Termination Causes)] リストボックスに表示されます。

(注) コール終了原因の全リストを表示するには、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』の「Call Termination Cause Codes」を参照してください。

ステップ 4 CDR データを検索する期間の日付と時刻の範囲を選択します。時刻範囲を設定する際には、UTC を使用します。

ステップ 5 CDR 検索をグループ化ありで実行するか、なしで実行するかを選択します。グループ化するように選択する場合は、[グループ化する (With Grouping)] の横のチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、[グループ化なし (Without Grouping)] が指定されています。

(注) グループ化するように選択すると、検索の日付と時刻の範囲内の CDR レコードが返され、それらが関連のあるレコードでグループ化されます。グループ化なしで実行すると、日付と時刻の範囲が一致するすべての CDR レコードがグループ化されずに、各コールに関連するすべてのレコードが返されます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

[コール終了の詳細 (Call Termination Details)] ウィンドウに、レポート生成に使用されたレポート条件が表示され、さらに選択されている各原因コードの与えられた時間範囲内に発信されたコールの総数、コールログ数、コールログの割合 (%) が表示されます。[ステップ 4 \(16 ページ\)](#) で設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。

ステップ 7 CDR を表示するには、[コール終了詳細情報の表示 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

コール終了詳細情報の表示

ここでは、コール終了詳細情報を表示する方法を説明します。

始める前に

[コール終了原因での CDR 検索の生成 \(10 ページ\)](#) の手順に従って、[コール終了の詳細 (Call Termination Details)] ウィンドウを表示します。

手順

ステップ 1 [CDR の選択 (Select CDRs)] フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにするか、またはリスト内のすべての CDR を表示する場合は [CDR の選択 (Select CDRs)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2 表示する CDR を選択し終わったら、[CDR の表示 (View CDRs)] をクリックします。

[CDR-CMR 検索結果 (CDR-CMR Search Results)] ウィンドウが表示されます。

メディア情報と CDR-CMR ダンプ レコードを表示するには、[その他 (Others)] リンクと [表示 (View)] リンクをクリックします。

- ステップ 3** ウィンドウに表示された情報を印刷するには、ブラウザで [編集 (Edit)] をクリックします。[すべて選択 (Select All)] を右クリックして、印刷するレポート部分を強調表示にします。[Print] をクリックします。
- ステップ 4** レポートを電子メールで送信するには、[レポートの送信 (Send Report)] をクリックし、[メール レポート](#) で説明されている手順を実行します。

コールの優先度別の CDR 検索の生成

コールの優先レベル別の CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。

ここでは、コールの優先度に従ってコールを検索する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** [CDR] > [検索 (Search)] > [コールの優先レベル別 (By Call Precedence Level)] を選択します。
- [優先レベル別の CDR 検索 (CDR Search by Precedence Levels)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [優先レベルの選択 (Select Precedence Levels)] で、検索するコールの優先レベルのチェックボックスをオンにします。優先レベルの詳細については、次の表を参照してください。

表 4: コールの優先レベル

音声品質	説明
フラッシュ オーバーライド (Flash Override)	MLPP コールで最も高い優先度設定。
フラッシュ (Flash)	MLPP コールで 2 番目に高い優先度設定。
即時 (Immediate)	MLPP コールで 3 番目に高い優先度設定。
プライオリティ (Priority)	MLPP コールで 4 番目に高い優先度設定。
標準 (Routine)	MLPP コールで最も低い優先度設定。

(注) [管理 (Administration)] ページの MLPP 優先レベルに記載されているエグゼクティブ オーバーライド優先レベルは、このレポートではフラッシュ オーバーライドと見なされます。

(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、[すべて選択 (Select All)] をクリックします。チェックボックスをオフにするには、[すべてクリア (Clear All)] をクリックします。

- ステップ 3** [開始日 (From Date)] フィールドで、CDR を検索する日付と時刻を選択します。現在の時刻が協定世界時 (UTC) と現地時間の両方で表示され、次のルールが使用されます。
- UTC と現地時間は、January 15, 2007 12:00:00 のように mmddyyyy hhmmss の数値文字列で構成されます。
 - デフォルトの FromDate 値と ToDate 値が、UTC 時刻で表示されています。
 - デフォルトの ToDate は、サーバの現在の時刻を UTC 時刻で表したものです。
 - デフォルトの FromDate 値は、ToDate 値より 1 時間前の時刻です。たとえば、ToDate 値が January 15, 2007 12:00:00 の場合なら、FromDate のデフォルト値は January 15, 2007 11:00:00 になります (すべて UTC 時刻)。
- ステップ 4** [終了日 (To Date)] フィールドで、CDR を検索する日付と時刻を選択します。
- ステップ 5** CDR 検索をグループ化ありで実行するか、なしで実行するかを選択します。グループ化するように選択する場合は、[グループ化する (With Grouping)]の横のチェックボックスをオンにします。デフォルト値は、グループ化なしです。
- (注) グループ化を選択すると、検索の日付と時刻の範囲が一致する CDR レコードが、関連するレコードでグループ化されてシステムから返されます。グループ化なしで実行すると、日付と時刻の範囲が一致するすべての CDR レコードがグループ化されずに、各コールに関連するすべてのレコードが返されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
- [コールの優先順位の詳細 (Call Precedence Details)] ウィンドウが表示され、コールの優先度レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。
- ステップ 7** [CDRの選択 (Select CDRs)] カラムで、参照する CDR のチェックボックスをオンにします (複数可)。
- ステップ 8** [CDRの表示 (View CDRs)] をクリックします。
- [優先レベル別のCDR-CMR検索 : CDR-CMR検索結果 (CDR-CMR Search by Precedence Levels : CDR-CMR Search Results)] ウィンドウが表示されます。 [ステップ 3 \(18 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(18 ページ\)](#) [ステップ 4 \(18 ページ\)](#) で設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。
- ステップ 9** CMR データを表示するには、[その他 (Others)] をクリックします。CDR と CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[表示 (View)] をクリックします。
- ステップ 10** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[レポートの送信 (Send Report)] をクリックし、[メールレポート](#) の手順を実行します。

迷惑呼の CDR 検索の生成

迷惑呼の CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。

ここでは、迷惑呼を検索する方法を説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [検索 (Search)] > [迷惑呼 (Malicious Calls)] を選択します。

[迷惑呼の CDR 検索 (CDR Search for Malicious Calls)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- a) [電話番号/SIP URL の選択 (Select Phone Number/SIP URL(s))] ボックスで、[電話番号/SIP URL (Phone Number/SIP URL)] フィールドに電話番号または SIP URL を入力し、[電話番号/SIP URL の追加 (Add Phone Number/SIP URL)] をクリックします。

[選択された電話番号/SIP URL (Selected Phone Number/SIP URL(s))] ボックスにユーザの電話番号または SIP URL が表示されます。

- b) ユーザの電話番号または SIP URL を検索するには、[ユーザ別の内線番号/SIP URL の検索 (Search Internal Phone Number/SIP URL based User)] リンクをクリックし、[名 (First Name)] フィールドにファーストネーム、[姓 (Last Name)] フィールドにラストネームの最初の数文字を入力し (どちらか片方でもかまいません)、[検索 (Search)] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、取り込みたい結果の横にある [選択 (Select)] リンクをクリックします。[選択された電話番号/SIP URL (Selected Phone Number/SIP URL(s))] ボックスに、ユーザの電話番号または SIP URL が表示されます。[閉じる (Close)] をクリックします。

(注) 電話番号または SIP URL を削除するには、削除する電話番号または SIP URL を選択して強調表示し、[電話番号/SIP URL の削除 (Remove Phone Number/SIP URL(s))] をクリックします。すべての電話番号または SIP URL を削除するには、[すべての電話番号/SIP URL を削除 (Remove All Phone Number/SIP URL(s))] をクリックします。

ステップ 3 CDR データを検索する期間の日付と時刻の範囲を選択します。現在の時刻が協定世界時 (UTC) と現地時間の両方で表示され、次のルールが使用されます。

- a) UTC と現地時間は、January 15, 2007 12:00:00 のように mmddyyyy hhhmss の数値文字列で構成されます。
- b) デフォルトの FromDate 値と ToDate 値が、UTC 時刻で表示されています。
- c) デフォルトの ToDate は、サーバの現在の時刻を UTC 時刻で表したものです。
- d) デフォルトの FromDate 値は、ToDate 値より 1 時間前の時刻です。たとえば、ToDate 値が January 15, 2007 12:00:00 の場合なら、FromDate のデフォルト値は January 15, 2007 11:00:00 になります (すべて UTC 時刻)。

ステップ 4 CDR 検索をグループ化ありで実行するか、なしで実行するかを選択します。グループ化するように選択する場合は、[グループ化する (With Grouping)] の横のチェックボックスをオンにします。デフォルト値は、グループ化なしです。

(注) グループ化するように選択すると、検索の日付と時刻の範囲内の CDR レコードが返され、それらが関連のあるレコードでグループ化されます。グループ化なしの場合は、日付と時刻の範囲内のすべての CDR レコードが、グループ化されず、各コールのすべての関連レコードでまとめて返されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[CDR-CMR 検索結果 (CDR-CMR Search Results)] ウィンドウが表示されます。**ステップ 3 (19 ページ)** で設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。

ステップ 6 CMR データを表示するには、[その他 (Others)] をクリックします。CDR と CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[表示 (View)] をクリックします。

ステップ 7 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[メールレポート](#) の手順を実行します。

コール タイプの CDR 検索の生成

異なるコール タイプの CDR 検索の機能を使用できるのは、CAR 管理者だけです。

ここでは、さまざまなコール タイプを検索する方法を説明します。

手順

ステップ 1 [CDR]>[検索 (Search)]>[コールタイプ別 (By Call Types)] を選択します。

[異なるコールタイプの CDR 検索 (CDR Search for Different Call Types)] ウィンドウが表示されます。

(注) 電話番号または SIP URL の検索には、「[!]」または「[X]」などのワイルドカードパターンを入力できます。「[!]」は、各桁が 0～9 の任意の n 桁を表し、「[X]」は、0～9 の範囲の 1 桁を表します。

ステップ 2 [コールタイプの選択 (Select Call Type)] ドロップ ダウン リストからコール タイプを選択します。

次に、コール タイプの一覧を示します。

- **成功した IME コール** : IME トランク経由で正常にルーティングされたコール。
- **失敗した IME コール** : IME トランク経由でルーティングが試行されたが失敗したコール。
- **代替ルートにフォールバックした IME コール** : 最初は IME トランク経由でルーティングされたコール。ただし、何らかの理由で (たとえば、低い QoS) 、フォールバックメカニズムが開始され、これらのコールは代替ルートへ再ルーティングされた通話中になります。代替ルートは通常 PSTN ルートです。
- **代替ルートへのフォールバックに成功したコール** : 代替ルートに正常にフォールバックされたコール。代替ルートは通常 PSTN ルートです。
- **代替ルートへのフォールバックに失敗したコール** : 代替ルートにフォールバックできなかったコール。

- **IME** リダイレクトが原因の代替ルートへのコール：（コールセットアップ時に）IME へのルーティングが試行されたが、何らかの理由で代替ルートにルーティングされたコール。代替ルートは通常 PSTN ルートです。

ステップ 3 次のいずれかの作業を実行します。

- a) 電話番号/SIP URL に基づいて CDR を検索するには、[電話番号/SIP URL (Phone Number/SIP URL)] フィールドに電話番号または SIP URL を入力し、[電話番号/SIP URL の追加 (Add Phone Number/SIP URL)] をクリックします。
- b) ユーザに基づいて CDR を検索するには、[ユーザ別の内線番号/SIP URL の検索 (Search Internal Phone Number/SIP URL based User)] リンクをクリックして、[名 (First Name)] フィールドに名前 (ファーストネーム) の最初の数文字、または [姓 (Last Name)] フィールドに姓の最初の数文字を入力して [検索 (Search)] をクリックします。結果が表示されたら、取り込みたい結果の横にある [選択 (Select)] リンクをクリックします。[閉じる (Close)] をクリックします。

[選択された電話番号/SIP URL (Selected Phone Number/SIP URL(s))] ボックスに電話番号または SIP URL が表示されます。

(注) [レポート基準 (Report Criteria)] ボックスから項目を削除するには、[電話番号/SIP URL の削除 (Remove Phone Number/SIP URL(s))] ボタンをクリックします。[すべての電話番号/SIP URL を削除 (Remove All Phone Number/SIP URL(s))] をクリックすれば、[レポート基準 (Report Criteria)] ボックスからすべての項目を削除できます。

ステップ 4 現在の時刻が、協定世界時 (UTC) と現地時間の両方で表示されます。UTC と現地時間は、January 15, 2007 12:00:00 のように mmddyyyy hhmmss の数値文字列で構成されます。

ステップ 5 [タイムゾーンの選択 (Select TimeZone)] フィールドから、CDR の検索に使用するタイムゾーンを選択します。オプションには、現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) が含まれます。

ステップ 6 [開始日 (From Date)] フィールドと [終了日 (To Date)] フィールドで、CDR を検索する開始日時と終了日時をそれぞれ選択します。[開始 (From)] フィールドと [終了 (To)] フィールドの時刻には、次の規則が適用されます。

- a) デフォルトの FromDate 値と ToDate 値が、UTC 時刻で表示されています。
- b) デフォルトの ToDate は、サーバの現在の時刻を UTC 時刻で表したものです。
- c) デフォルトの FromDate 値は、ToDate 値より 1 時間前の時刻です。たとえば、ToDate 値が January 15, 2007 12:00:00 の場合なら、FromDate のデフォルト値は January 15, 2007 11:00:00 になります (すべて UTC 時刻)。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

[CDR-CMR 検索結果 (CDR-CMR Search Results)] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 とステップ 4 で設定した日付と時刻の範囲内で古い方から 100 レコードだけが表示されます。100 を超えるレコードが返された場合は、超えた部分の結果は切り捨てられます。

ステップ 8 CMR データを表示するには、[その他 (Others)] をクリックします。CDR と CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[表示 (View)] をクリックします。

ステップ 9 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[レポートの送信 (Send Report)] をクリックし、[メールレポート](#)の手順を実行します。

CDR 検索結果

CDR 検索では、ユーザは、表の説明どおりに CDR/CMR フィールドを表示できます。CDR 検索は、CAR データベースの tbl_billing_data テーブルおよび tbl_billing_error テーブルから CDR/CMR ファイルを取得します。

次の表を参照してください。

表 5: CDR 検索結果

フィールド	説明 (Description)
シリアル番号 (SI No)	シリアル番号またはレコード番号を示します。
コールタイプ	コールの種類を示します。Simple、Transfer、Forward、Pickup、Conference、Refer、Replaces、Redirection があります。
GCID_CMIIdGCID_CallId	コール全体のすべてのレコードに関連付けられているコール ID を示します。
Orig Node IdDest Node Id	コール時にコールの発信元/宛先が登録されたサーバを示します。
Orig Leg IdDest Leg Id	コールの発信元/宛先レグの一意の ID を示します。
Calling NoCalling No Partition	Calling No は、コールの発信元の電話番号（発信番号）を示します。Calling No Partition は、発呼側に関連付けられているパーティションを示します。
Called NoCalled No Partition	Called No は、最初にコールがかけられた電話番号（着信番号）を示します。これは、コールが転送もフォワーディングもされなかった場合は Dest No と同じです。Called No Partition は、着信側に関連付けられているパーティションを示します。

フィールド	説明 (Description)
Dest NoDest No Partition	Dest No は、コールが最終的に終端した電話番号を示します。これは、コールが転送もフォワーディングもされなかった場合は Called No と同じです。Dest No Partition は、宛先番号に関連付けられているパーティションを示します。
Last Rd NoLast Rd No Partition	Last Rd No は、コールの最終的なリダイレクトのリダイレクト元を示します。Last Rd No Partition は、Last Rd No に関連付けられているパーティションを示します。
Media InfoOrig Pkts Rcd Dest Pkts Rcd Orig Pkts Lost Dest Pkts Lost	受信されたパケット、コールの発信元ログまたは宛先ログで失われたパケット、およびメディア情報へのリンクを示します。
CDR - CMR Dump	CDR および CDR ダンプ テーブルへのリンクを示します。ユーザは、このリンクから CDR/CMR の各フィールドの値を表示できます。

メディア情報

メディア情報テーブルは、次の情報を提供します。表を参照してください。

表 6: CDR メディア情報

フィールド	説明 (Description)
発信元レッグ (Origination Leg)	コールの発信元レッグの一意の ID。
宛先レッグ (Destination Leg)	コールの宛先レッグの一意の ID。
パラメータ (Parameter)	メディア パラメータ MediaTransportAdd_Ip、PayLoadCapability、MediaCap_g723BitRate、Packets Sent、Octets Sent、Packets Received、Octets Received、Packets Lost、Jitter、Latency、QoS、VideoCap_Codec、VideoCap_Bandwidth、VideoCap_Resolution、VideoTransportAddress_IP、VideoTransportAddress_Port。
発信元 (Origination)	コールの発信元レッグの、前に示された全パラメータの値。
接続先 (Destination)	コールの宛先レッグの、前に示された全パラメータの値。

CDR および CMR ダンプテーブル

CDR および CMR ダンプテーブルは、次の情報を提供します。次の表を参照してください。



- (注) 発信 CMR および着信 CMR のフィールド内の音声品質メトリックス フィールド varVQMetrics の内容を表示できます。

表 7: CDR および CMR ダンプテーブル

フィールド	説明 (Description)
CDR	このフィールドは、コールの詳細記録フィールドを示します。
発信 CMR (Origination CMR)	存在する発信元および宛先の単一セットのフィールドのみ。発信元または宛先の CMR は、ログ ID を使用して見つけられます。CMR のログ ID が CDR の Orig/Dest Leg ID と一致する場合、次のレコードが Orig/Dest CMR を表します。
着信 CMR (Destination CMR)	存在する発信元および宛先の単一セットのフィールドのみ。発信元または宛先の CMR は、ログ ID を使用して見つけられます。CMR のログ ID が CDR の Orig/Dest Leg ID と一致する場合、次のレコードが Orig/Dest CMR を表します。

次に、CDR ダンプ ファイルの出力の例を示します。

CDR ダンプ ファイルの出力例

```
cdrRecordType, globalCallID_callManagerId, globalCallID_callId, origLegCallIdentifier,
dateTimeOrigination, origNodeId, origSpan, origIpAddr, callingPartyNumber,
callingPartyUnicodeLoginUserID, origCause_location, origCause_value, origPrecedenceLevel,
origMediaTransportAddress_IP, origMediaTransportAddress_Port, origMediaCap_payloadCapability,
origMediaCap_maxFramesPerPacket, origMediaCap_g723BitRate, origVideoCap_Codec,
origVideoCap_Bandwidth, origVideoCap_Resolution, origVideoTransportAddress_IP,
origVideoTransportAddress_Port, origRSVPAudioStat, origRSVPVideoStat, destLegIdentifier, destNodeId,
destSpan, destIpAddr, originalCalledPartyNumber, finalCalledPartyNumber,
finalCalledPartyUnicodeLoginUserID, destCause_location, destCause_value, destPrecedenceLevel,
destMediaTransportAddress_IP, destMediaTransportAddress_Port, destMediaCap_payloadCapability,
destMediaCap_maxFramesPerPacket, destMediaCap_g723BitRate, destVideoCap_Codec,
destVideoCap_Bandwidth, destVideoCap_Resolution, destVideoTransportAddress_IP,
destVideoTransportAddress_Port, destRSVPAudioStat, destRSVPVideoStat, dateConnect,
dateDisconnect, lastRedirectDn, pkid, originalCalledPartyNumberPartition,
callingPartyNumberPartition, finalCalledPartyNumberPartition, lastRedirectDnPartition, duration,
origDeviceName, destDeviceName, origCallTerminationOnBehalfOf, destCallTerminationOnBehalfOf,
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf, lastRedirectRedirectOnBehalfOf, origCalledPartyRedirectReason,
```


lastRedirectRedirectReason, destConversationId, globalCallId_ClusterID, joinOnBehalfOf, comment, authCodeDescription, authorizationLevel, clientMatterCode, origDTMFMethod, destDTMFMethod, callSecuredStatus, origConversationId, origMediaCap_Bandwidth, destMediaCap_Bandwidth, authorizationCodeValue, outpulsedCallingPartyNumber, outpulsedCalledPartyNumber, origIpv4v6Addr, destIpv4v6Addr, origVideoCap_Codec_Channel2, origVideoCap_Bandwidth_Channel2, origVideoCap_Resolution_Channel2, origVideoTransportAddress_IP_Channel2, origVideoTransportAddress_Port_Channel2, origVideoChannel_Role_Channel2, destVideoCap_Codec_Channel2, destVideoCap_Bandwidth_Channel2, destVideoCap_Resolution_Channel2, destVideoTransportAddress_IP_Channel2, destVideoTransportAddress_Port_Channel2, destVideoChannel_Role_Channel2, IncomingProtocolID, IncomingProtocolCallRef, OutgoingProtocolID, OutgoingProtocolCallRef, currentRoutingReason, origRoutingReason, lastRedirectingRoutingReason, huntPilotPartition, huntPilotDN

INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(50), VARCHAR(128), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(64), VARCHAR(64), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(50), VARCHAR(50), VARCHAR(128), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(64), VARCHAR(64), INTEGER, INTEGER, VARCHAR(50), UNIQUEIDENTIFIER, VARCHAR(50), VARCHAR(50), VARCHAR(50), VARCHAR(50), INTEGER, VARCHAR(129), VARCHAR(129), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(50), INTEGER, VARCHAR(2048), VARCHAR(50), INTEGER, VARCHAR(32), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(32), VARCHAR(50), VARCHAR(50), VARCHAR(64), VARCHAR(64), INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(32), INTEGER, VARCHAR(32), INTEGER, INTEGER, INTEGER, VARCHAR(50), VARCHAR(50)

1, 1, 37, 29654625, 1258090294, 1, 0, 136269066, 1001, caruser2, 0, 16, 4, 136269066, 16790, 4, 20, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 29654626, 1, 0, 85937418, 5555, 1002, caruser1, 0, 0, 4, 85937418, 30844, 4, 20, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1258090296, 1258090383, 5555, dcf0b5c9-7d57-475b-b166-d207a6617f34, , , , 87, SEP003094C3CCB0, SEP0002FD3BA528, 12, 0, 0, 0, 0, 0, StandAloneCluster, 0, , , 3, 3, 0, 0, 64, 64, , , , 10.77.31.8, 10.77.31.5, 101,0,5,0,0,1,100,0,3,0,0,1,3,0000000000000108012BB4AE00000002,3,0000000000000108012BB4B200000000,2,5,7,1000,5555

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。